

平成28年度 学校評価実施報告書

学校番号 9

学校名 千葉県立千葉北高等学校

課程名 全日制の課程

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>① ホームページの更新を頻繁に行い、学校行事や部活動の様子を紹介した。学校評価アンケートは質問目を整理し、一つの内容について生徒・保護者・教職員の三方から質問することにより、比較ができるようにした。</p> <p>② 昨年度同様、緑が丘中学校区青少年育成委員会他地域の行事に生徒が参加協力し、地域の方々から感謝の言葉をいただき励みとなった。とりわけ今年度は、宮の杜自治会清掃ボランティア(年2回)にはそれぞれ百数十人の参加があった。</p>	<p>① 学校行事や部活動の活動内容の紹介を充実させていくことが課題である。学校評価アンケートについてはその結果を踏まえ、学校運営や学習・生徒・進路指導等において改善を図る必要がある。</p> <p>② 生徒の地域行事等への参加は、生徒の有用感や充実感・達成感等につながることから、今後も継続する。また、近隣中学校との連携を更に進め、高大連携事業及び授業公開についても、一層の充実を図りたい。</p>
学習指導	<p>① 授業力向上のための工夫について、生徒と教職員では満足度に差がみられた。保護者からは進学補習への工夫や授業力向上を期待する声が多く寄せられ、関心が高さを示す結果となった。</p> <p>② 家庭学習に関する項目は、生徒・保護者・教職員ともに数値が低い。生徒の数値は昨年よりも高くなっており、意識して取り組んでいると思われる。</p>	<p>① 授業に関する項目において、保護者から「参考資料が少ないので評価しづらい」というコメントが多かった。昨年度の課題として挙げられた授業公開の機会増加も含め、工夫・検討が必要である。</p> <p>② 学校と家庭が連携し、生徒が家庭において学習できる取組を考えていく。</p>
生徒指導	<p>① 各学期に1回、全職員による登校指導を実施した。第1学期末の皆勤者数は1080名中776名、第2学期末時点では579名と非常に多い状況であり、昨年度に比べ増加している。遅刻回数が多い生徒については保護者連絡・面談等を行った。該当生徒は4名であった。</p> <p>② 教育相談については教育相談室を中心とした教育相談体制が図られている。また必要に応じて個人面談も行われている。</p> <p>③ 人権教育の一環としてSNSの正しい使い方、人権啓発に関するビデオを上映した。また、いじめアンケートを実施し、その結果から実態把握・早期発見をし、対応した。</p> <p>④ 1学年を対象に交通安全講話を実施した。今年度の自転車の事故発生件数は昨年度に比べて減少した。</p> <p>⑤ 整容(服装)指導や服装頭髪検査について、強化週間も設け、生徒の実態に応じて実施した。</p>	<p>① 時間を見据えて計画的に行動できる習慣の定着を促す。遅刻の多い生徒には個別に本人、保護者との面談を実施し、家庭からの協力を得ながら正しい生活習慣の確立をめざす。</p> <p>② 今後も各担当者との連携を密にしながら生徒の心身の健康育成を図る。</p> <p>③ 引き続き教育活動での充実を図り、思いやりの心を提唱し他人の人権を考えることができる心を育む。</p> <p>④ 通学路での危険区域を再確認し、引き続き交通規則を遵守する精神を育てる。</p> <p>⑤ 毎時間の整容(服装チェック)を継続し、より一層の指導の定着を図る。また、学年間の指導格差是正のために、生徒指導部と学年指導係の合同会議を引き続き開催する。</p>
キャリア教育	<p>① 生徒への進路指導について、進路補習や進路ガイダンスの実施などにより、7割以上の保護者及び生徒から肯定的な評価を得た。</p> <p>② 進路補習については、平常時・夏季休業中ともに20講座以上を実施し、昨年度を上回る開講数であった。進路ガイダンスは例年の反省を生かし、実施した。全校の進路通信『北斗星』は6号まで発行し、保護者及び生徒から好評だった。</p> <p>③ 各種ガイダンス等の行事についてはホームページ上で活動報告を行い、周知した。</p>	<p>① 現在の進路指導体制を継続するとともに、定期的なアンケート調査を保護者及び生徒に実施することでニーズを把握していく。</p> <p>② 進路補習や進路ガイダンスの案内や実施予定については、事前にホームページ上で告知することで、保護者への関心や理解を深める。進路通信等についても、ホームページ上から閲覧できるシステムを構築する。</p> <p>③ 進路行事後のアンケート調査について、可能な範囲でホームページ上にアップし、結果を共有するとともに、次年度への反省として生かす。</p>
特別活動	<p>① 文化祭での制約が多く緩和して欲しい、飲食店を増やして欲しいとの生徒からの意見が多数あった。</p> <p>② 学校は地域と連携した取組を熱心に行っていると答えた生徒は70%、教職員は96%が肯定的な回答をしている。</p> <p>③ 学校行事は充実していると答えた生徒は昨年度84%から今年度72%と減少したものの、自分のクラス(あるいは学校)が楽しいと答えた生徒は77%から80%と増加した。</p>	<p>① 飲食店については、今年度は引き受けるクラスが出なかった。衛生面に関しては、安全面を確保する上で緩和することは難しい。</p> <p>② 地域行事への参加や奉仕活動をより積極的に行って欲しいとの要望が保護者からあったので、引き続き地域連携事業の充実を図っていく。</p> <p>③ この状況を維持できるように、学校行事に臨む現在の姿勢の継続及び強化を図っていく。</p>
特色ある教育活動	<p>① 7月にオーストラリア短期留学を実施し、1年10人、2年4人、3年1人の15名が参加した。11月に国際理解セミナーを実施した。渡部陽一氏の講演には多数の保護者の来場が見られ、事後アンケートにおいても好評であった。</p> <p>② 10月に授業公開を行い、延べ46名の参観があった。保護者、近隣中学校教員・生徒から本校の授業展開や生徒の様子について、肯定的な評価を得られた。</p> <p>③ 明治大学・東邦大学との高大連携授業を実施し、受講した生徒からは「専門家の指導のもとに、高度な実験をすることができ、とてもいい経験になった」など好評であった。</p>	<p>① 短期留学の引率職員の決定を早くし、出発日を遅らせることで、事前準備を充実させたい。国際理解セミナーでは、生徒の評価を左右することになる講師の人选や講演内容について、毎回多面的に検討する必要がある。</p> <p>② 開かれた学校づくりの一環として授業公開の評価は良好である。実施時期や方法等の周知の仕方についてもさらに検討し、参観者の増加に努める。</p> <p>③ 大学等との連携については、今後も積極的に多くの機関に働きかけ、機会を増加して継続していく。</p>